

第54回全国豆類経営改善共励会の結果について

(公財)日本豆類協会

令和7年産の豆類生産で、特に経営改善の面から先進的で他の模範となる豆類生産農家及び生産集団を表彰する第54回全国豆類経営改善共励会（主催：全国農業協同組合中央会、株式会社日本農業新聞）の表彰式が、令和8年6月26日に東京大手町のJAビルにて開催されましたので、その概要を報告します。

1 応募者と全国審査会の状況

第54回全国豆類経営改善共励会への参加点数は208点で、内訳は大豆家族経営の部77点、大豆集団の部61点、小豆・いんげん・落花生等の部に70点でした。

都道府県、ブロックの審査を経て、5月27日に全国審査委員会が開催されました。同審査委員会には、國分牧衛審査委員長ほか8名が出席し、厳正なる審査を経て農林水産大臣賞をはじめ各賞を決定しました。なお、日本農業新聞会長賞及び日本豆類協会理事長賞の該当はありませんでした。

受賞者は、いずれも優秀で、関係者の方々の日頃の努力が見事に実を結んだものと高く評価されました。

2 表彰受賞者

①農林水産大臣賞	
大豆 家族経営の部	株式会社奥山農園 代表取締役 奥山喜男（山形県河北町） 有限会社山善農園 代表取締役 杉山善昭（茨城県筑西市）
大豆 集団の部	JAこしみず豆類対策委員会（対策委員長 牧野昭紀）（北海道小清水町）
小豆・いんげん・落花生等の部	白馬照泰（北海道大空町）
②農林水産省農産局長賞	
大豆 家族経営の部	新山武（秋田県横手市） 鶴田晃康（愛知県安城市）
大豆 集団の部	株式会社ナカガワファーム（代表取締役 西川正義）（滋賀県近江八幡市） 農事組合法人今井ぎおん営農組合（代表理事組合長 高松純一）（福岡県行橋市）
③全国農業協同組合中央会会長賞	
大豆 家族経営の部	株式会社河野農産 代表取締役 河野昭久（大分県国東市）
④全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞	
大豆 家族経営の部	伊藤耕業 代表 伊藤久寿（三重県菰野町）

● 3 農林水産大臣賞受賞者の経営概要 ●

(1) 株式会社奥山農園 代表取締役 奥山喜男（山形県河北町）

奥山農園は60ha余りの耕作面積を有し、水稻を中心として大豆やメロンを加えた複合経営を行っています。大豆は水稻とのブロックローテーションを行い12.3haに作付けし、単収は3年間の平均で306kg/10aと高く、品質も上位等級（1・2等）97%を達成しています。品種は実需者からの要望に応じて「里のほほえみ」を採用しています。

栽培技術面では、圃場ごとに明渠設置による排水対策の徹底、稲わらすき込みと発酵鶏糞の施用により化学肥料の節減、そして中耕培土の2回実施によ



農林水産大臣賞授与(株式会社奥山農園様)

る雑草害抑制を図っています。生育中期の高温少雨時にはうね間灌水を行い、水ストレスの軽減に努めています。さらに、農薬散布には無人ヘリコプターを活用し、収穫物の調製には粒径選別機や色彩選別機を活用して省力化と品質向上を実現しています。

(2) 有限会社山善農園 代表取締役 杉山善昭（茨城県筑西市）

山善農園は127haの耕作面積を持ち、水稻、小麦、大豆を組み合わせた輪作を行っています。大豆は50ha余りに作付けし、単収は3年間の平均で183 kg/10aと県平均よりも顕著に高く、品質も上位等級95%以上を達成しています。

品種面では、多収性を特徴とする大豆新品種「そらしリーズ」の一つである「そらみずき」を全国に先駆けて導入しています。本格導入した令和7年産



農林水産大臣賞授与(有限会社山善農園様)

では22.9haに作付けし、単収285kg/10aを記録するなど、県平均の2倍以上の高収量を実現しています。

さらに、「そらしリーズ」の種子不足という課題の解消に向け、県、農研機構及びJAと連携し、令和8年産から「そらみずき」の種子生産にも先駆的に取り組んでいます。

栽培技術面では、ブロックローテーションと排水対策（暗渠、明渠、心土破碎、片溝切り播種）の徹底により湿害の軽減を図っています。近隣農家からの提供を受けた堆肥と、稲わら・麦かんのすき込みにより、地力の維持に留意しています。また、狭畝密植栽培により中耕培土の工程削減やスマート農機の活用による作業の効率化に努めています。

(3) JAこしみず豆類対策委員会（対策委員長 牧野昭紀）（北海道小清水町）

令和5年に組織された「豆類対策委員会」は、各種講習会を通じた生産技術の普及やJA施設への出荷日程調整を行うなど、大豆生産振興を組織的にを行っています。この団体は1万ha近い農地面積のうち大豆は382ha余りです。3年間平均で単収は383kg/10aと顕著に高く、連年ほぼ100%が上位等級と品質面でも優れています。オホーツク畑作地帯の従来の典型的な3作物による輪作体系（ジャガイモ—小麦—テンサイ）に大豆を導入し、4作物の輪作体系を確立しています。地力維持のため、近隣酪農家から入手した堆きゅう肥3t/10aと小麦収穫後の緑肥（エンバク）をすき込み、地力の維持を図っています。

先進的な農家を核に、大豆生産者が年々増加しています。主力品種の「とよまどか」は低温障害抵抗性を備えた新しい育成品種ですが、組織内に採取圃を設けて種子の増殖に努めたことも、新品種への切り替えをスムーズに行えた大きな要因です。



農林水産大臣賞授与（JAこしみず豆類対策委員会様）

(4) 白馬照泰（北海道大空町）

白馬氏は25.2haの農地（77%は水田）を耕作し、4.7haにいんげんを作付け、3年間の平均で221kg/10aの単収と上位等級100%を達成しています。

酪農との複合経営の利点を生かし、自給堆肥の施用と緑肥や麦かんすき込みによる地力維持に努めており、土壌診断に基づいて化学肥料の節減に取り組んでいます。また、暗渠・排水溝施工を実施し、



農林水産大臣賞授与（白馬照泰様）

作付け前には心土破碎を行って排水対策に万全を期しています。

主力品種の1つである「福白金時」は大阪の菓子業者から主力商品の原料として高い評価を受けています。さらに白馬氏は耐倒伏性と耐病性に優れた新品種である「秋晴れ」を先駆的に導入するとともに、地域への普及の中心的役割を果たしており、いんげんの収量と品質の安定化に貢献しています。

● 4 表彰式

第54回全国豆類経営改善共励会の表彰式は、令和8年6月26日(金)午後、JAビルにて開催されました。

当日は、ご来賓の広瀬建農林水産大臣政務官のご臨席の下、主催者の藤間則和全国農業協同組合中央会常務をはじめ関係者多数が参列し、祝辞、表彰状の授与、審査講評、受賞の言葉などがつつがなく執り行われました。

広瀬政務官からの祝辞では、「食料・農業・農村基本計画」においては、大豆等について、生産性の向上に係る意欲的な目標を設定していること、令和9年度以降の水田政策の見直しにおいては、今週（6月22日）から地方キャラバンを行う等現場の実態を踏まえ、幅広いご意見を丁寧に伺いながら検討を進めていきたいことに触れつつ、生産性向上の実現に向けて、本日、受賞された皆様方の素晴らしい取組が広く普及することを大いに期待していること、また、来年3月から、横浜市において開催されるGREEN×EXPO2027は「幸せを創る明日の風景」をテーマに、農や食を含めた課題解決に皆様とチャレンジしていくものであり、豆類にもかかわりの深い博覧会であることを述べられました。

國分委員長による審査講評では、大臣賞受賞者それぞれの特徴的な技術・経営内容を紹介するとともに、大豆栽培には不適とされた北海道東部の寒冷地において新たな産地が形成されつつあること、また、新たな超多収品種の多収性が各地で検証されつつあり、我が国的大豆単収増加の切り札として今後の普及拡大に期待したい旨、述べら



祝辞(広瀬建農林水産大臣政務官)



審査講評(國分牧衛審査委員長)

れました。

受賞者を代表してJAこしみず豆類対策委員会の牧野氏が受賞の言葉を述べられました。その中で、明治の開拓以来、代々積み上げてきた精神を次の世代に残していくために、皆で課題を共有し、輪作や堆肥の施用など当たり前のことをやり続けることが重要と考えていること、大臣賞の名に恥じないよう責任と役目を果たしたいこと、そして、今日は他の受賞者の皆さんの取組を学びたいと話されました。



受賞の言葉(牧野昭紀様)

表彰式の後には懇親会が行われました。ここでは、牛スネのペポーズ・白いんげんの香草マリネ、大豆ミートのキーマカレー・ヌイユ添えといった豆を含む美味しい料理が提供され、和やかな雰囲気の中各賞を受賞された皆様が熱心に情報交換をされていました。



記念写真

なお、第54回全国豆類経営改善共励会の結果については、表彰式当日の日本農業新聞に掲載され、広く関係者に周知されました。また、受賞された経営体の実績・成績概要をまとめた成績概要が共励会ホームページに掲載されていますので御覧ください。

<https://pr.agrinews.co.jp/archives/3149>

(注) 写真は株式会社日本農業新聞提供。

(参考) 第54回全国豆類経営改善共励会成績概要(令和8年6月26日)